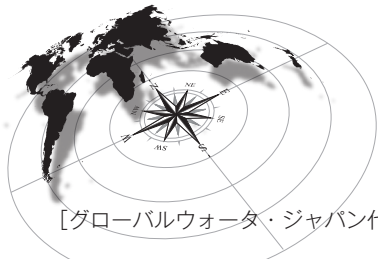




「水に関する国際的な会議の流れ」・その2



吉村 和就
[グローバルウォーター・ジャパン代表 国連環境アドバイザー]



近年、水に関する数多くの国際会議が開催され、様々な宣言や報告書が出されているが、歴史的に大規模な水会議の流れを概観してみたい。

水に関する初の大規模な政府間の国際会議は、今から46年前の1977(昭和55)年にアルゼンチンのマル・デル・プラタで開催された「国連水会議(United Nations Water Conference)」である。同会議では水管理の重要な要素に関する勧告および個別水分野に関する決議「マル・デル・プラタ宣言(行動計画)」が採択。約半世紀後の2023年3月には「国連2023水会議」がニューヨークの国連本部で大規模に開催された(本紙GWN第94回で詳述)。今回はGWN第93回に続き、その2として「世界水フォーラム」第七~九回の成果や日本が主導する「アジア・太平洋水サミット」の成果を紹介する。

1. 世界水フォーラムの歴史

世界水フォーラムは、1996年に世界各国の政府、国際機関、学識者、企業およびNGOにより水分野での研究等を行うために設立された世界水会議(World Water Council)が提唱し、3年に一度、世界各地で開催されることになった。

1) 第七回世界水フォーラム(2015年4月): 韓国・大邱(テグ)・慶州

私たちの未来のための水(Water for Our Future)を主要テーマに水資源の持続可能性について論議された。参加国168カ国、閣僚会議には各国から約100名の出席、約4万人のフォーラム参加者であった。

その成果としては、以下について論議され、水問題について総合的なアプローチが提唱された。

- 国際的な水資源マネージメントの重要性の確認
- 水の枯渇や水不足に直面する地域に対する支援体制と支援の約束
- 水と気候変動、都市問題と水資源、食料と水との関連性

日本からは太田昭宏国土交通大臣が、フォーラムの閣僚会議に出席、「統合水資源管理に関する閣僚円卓会議」で議長を務め、各国の水資源管理の体制強化、技術開発や制度整備の重要性について議論が交わされた。

日本の貢献では、皇太子殿下がビデオメッセージで「人々の水への想いをかなえる」と題し、日本が水とともに歩んだ歴史を述べ、「人々の知恵と工夫がより良い科学技術を生み、安全で豊かな、私たちの未来の水へと発展することを



▲第七回世界水フォーラム
メイン会場の大邱EXCO



▲日本パビリオンを訪れたVIP
(左から二人目が筆者)

確信してます」と締めくくった。

日本パビリオンでは、台風接近にも関わらず、日本企業の関係者が沢山集合し、盛り上がりを見せた。閉会式では約1千名の出席で「大邱・慶州実行宣言」を採択し、水の安全保障、開発と繁栄、持続可能な水資源管理、実現可能な履行メカニズムを約束し閉幕した。(GWN第1回(本紙1790号:平成27年4月28日発行)で詳述)

2) 第八回世界水フォーラム(2018年3月): ブラジル・ブラジリア

水の共有(Sharing Water)をテーマに閣僚級会議やハイレベルパネル「水と災害」などが展開された。172カ国から約12万人の参加であった。皇太子殿下は開会式にご臨席のあと、午後から「水と災害」ハイレベルパネルにおいて「繁栄・平和・幸福のための水」と題する基調講演を行い、300名を超える聴衆から大きな拍手がわき起こった(講演資料は宮内庁のHPに掲載)。



▲第八回世界水フォーラム 日本水フォーラムが「地域プロセス」グループのコーディネーターを務めた（写真提供：日本水フォーラム）

閣僚会議では、秋本真利国土交通大臣政務官がスピーチを行った。

第八回世界水フォーラムの成果は次の通り。

- 水に関する最新の政策や取り組みの共有
- 水課題の解決策に繋がるアプローチ、アイデアの創出
- 持続可能な開発目標（SDGs）に向けた取り組みの推進、特にSDG 6 目標の水に関する取り組みについて具体的な行動指針を策定した
- 水に関する国際法の整備に向けた具体的な提言が行われた

特筆すべき事項は、今までの各国の推進目標や努力義務などについて、世界に共通する国際法の推進や制定に向けた論議が始まったことである。

（GWN 第36回（本紙1867号：平成30年5月8日発行）で詳述）

3) 第九回世界水フォーラム（2022年3月）：セネガル

本来なら2021年の開催予定だったが、コロナ禍による一年の開催延期を受け、サブサハラ・アフリカ地域で初めての開催となった。テーマは「平和と発展のための水の安全保障」（Water Security for Peace and Development）で4つの優先課題（水の安全保障と衛

生、農村開発、協力、手段とツール）、さらに約90のテーマセッション、ハイレベルパネル、約52の特別セッションが展開された。開会式では天皇陛下のビデオメッセージが放映された。日本水フォーラムはテーマ別セッションで、日本を含むアジア・太平洋の取り組みに関する情報発信や、官民一体となった日本ブースの企画運営およびユース活動に関する情報発信、「京都世界水大賞2022」の授賞式を行った。閉会式では「ダカール宣言」として包括的なアジェンダを採択した。

- 水と衛生に関する目標を達成するためには、国際社会全体の取り組みが必要である
- 水資源管理には地球全体にわたる包括的なアプローチが必要であり、地球規模での協力が必要である。
- 水資源管理において、地方自治体や市民社会、水利用者が重要な役割を果たし、女性や先住民などの社会的弱者の利益を守ること
- 目標を達成するためには、技術革新、技術移転、そして適切な資金調達が必要である
- 次世代の利益を考慮し持続継続的な資金管理を行う

このダカール宣言は、今後の水資源の管理に関する包括的な国際的な枠組みを確立するための重要な一歩となった。

第十回世界水フォーラムは、2024年5月にインドネシアのバリ島で行われる予定である。

2. アジア・太平洋水サミット

アジア・太平洋水サミット（Asia-Pacific Water Summit）はアジア・太平洋水フォーラム（APWF事務局：日本水フォーラム）が主催し、アジア・太平洋地域の各国首脳や国際機関の代表などハイレベルの参加者が、アジア・太平洋地域の水に関する諸問題について、幅広い視点から議論を行う国際会議である。第四回世界水フォーラム（2006年3月メキシコ・シティ）の席上、橋本龍太郎元首相によってアジア・太平洋水フォーラムの設立が宣言され、同年9月にフィリピン・マニラでAPWFの発足記念式典が行われ、第一回アジア・太平洋水サミットの開催が決定された。

1) 第一回アジア・太平洋水サミット（2007年12月）：日本・大分県別府市

水の安全保障：リーダーシップと責任（Water Security: Leadership and Commitment）をテーマに大分県別府市で開催、アジア・太平洋地域の47カ国から政府首脳や国際機関の代表のほか、企業、地方自治体、学会、メディアなど多くの代表が参加。首脳級会合、ステークホルダー会合、分科会、テーマ別会合、シンポジウム、学生サミットなどが行われた。

2) 第二回アジア・太平洋水サミット（2013年5月）：タイ・チェンマイ



▲第三回アジア・太平洋水サミット 閣僚級参加者（中央はミャンマーのアウン・サン・スー・チー国家最高顧問兼外相（当時））

タイのチェンマイ国際会議展示場で開催された。主要テーマは水の安全保障と水災害への挑戦（Water Security and Water-related Disaster Challenges: Leadership and Commitment）。最終日にはチェンマイ宣言が採択された。

- ・水は持続可能な開発において、中心的な位置である
- ・アジア・太平洋地域は世界的にも災害多発地域であり、洪水や干ばつを含む水関連災害の強度、頻度が増し続けている。自然災害による死者数および経済的損失を削減する
- ・水に関わる開発および管理に係わる意思決定は、水の利用者、計画担当者、政策決定者など、すべてのレベルの人々を含んだ、参加型アプローチで行われるべきである
- ・持続可能な農業生産拡大には、水資源の効率的な運用、開発と運用が総合的に行うべきである

3) 第三回アジア・太平洋水サミット（2017年12月）：
ミャンマー・ヤンゴン市
開会式ではアウン・サン・

スー・チー国家最高顧問による開会挨拶と、各国国家元首・大臣級による基調講演が行われた。ヤンゴン宣言には、水の重要性、持続可能で健全な水資源管理の必要性、水に関する国際的な枠組み支援、技術革新と投資の促進などが織り込まれた。

（GWN第33回（本紙1860号：平成30年1月30日発行）で詳述）

4) 第四回アジア・太平洋水サミット（2022年4月）：日本・熊本市

熊本宣言では、水の持続可能性



▲第三回アジア・太平洋水サミット会場での筆者

についての取り組みの強化、強靱性、持続可能性、包摂性を兼ね備えた質の高い社会への変革を目指すためにガバナンス、科学技術、ファイナンスの強化などが織り込まれた。

（GWN第82回（本紙1963号：令和4年3月8日発行）で詳述）

さいごに

今後も、気候変動や人口の増加などによる水資源の枯渇や水汚染など、グローバルな水問題はますます深刻化していくことが予想される。そのために国際的な水に関する会議や水サミットは、持続可能な水資源管理に向けた国際的な協力や各国の水政策の策定に大きく貢献することが期待されている。



▲第四回アジア・太平洋水サミットの会場となった熊本城ホール（=矢印/出所：熊本市ホームページ）